

2019年度 12月例会のご案内

日 時： 2019年 12月 8日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： LE T会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・無 料
京都外国語大学より良い英語教育を考える会会員・・・・300円
学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200円
一般・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（桃山学院教育大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：30 開会（途中、休憩あり）

「発表」から「やりとり」へ：なぜ質問がでないのか？

京都教育大学 西本有逸

新学習指導要領は「話すこと」の言語活動を「発表」と「やりとり」に分けたが、それぞれ独立したスピーキング指導ではアクティブラーニングに結びつかない。簡単に実践可能な有機的な活動を提案したい。

- (1) 4人1グループの班編成とする。(3人でも可能)
- (2) ひとりが「発表」する。(Show & Tell あるいは紙芝居による presentation 等)
- (3) 残りの3人が、ひとり最低1つずつ何かしらの質問をする。
- (4) 発表者が回答することで「やりとり」が成立する。「やりとり」が続くことが望ましい。

この活動は小学校・中学校・高校どの校種でも実践可能である。しかし、筆者自身の授業経験そして教育現場への指導経験から、大きな課題があることが判明している。児童生徒が質問をしないのである。国公立大学や私立大学でも試みてきたが、同じ結果である。日本語使用を認めても改善されない。もちろん、いわゆるモチベーションの高い児童生徒や学生は積極的に質問をするが、まだまだ少ない。原因は即興的な英語力の低さや活動そのものに慣れていないことが挙げられるが、根本的な問題はもっと別の深いところにあると考えられる。それは、生徒の「関与」(engagement, involvement)の低さであると考えられる。他者の発表に耳を傾ける・興味関心を持つ・大袈裟ではあるが自己以外の事象に心を開く。このような姿勢が「関与」の中心にあるのではないか。

休憩

他者を意識したアウトプット活動をめざして

南丹市立園部中学校 津田優子

日々の授業において、生徒の英語学習に対するモチベーションを高めたり、能力を伸ばしたりすることが求められており、そのために様々な活動が教科書にも取り上げられています。それらの活動を行うなかで、生徒が英語を活用する具体的な場面の1つとして、プレゼンテーション活動に焦点を当て、取り組みを行ってきました。

今回の発表では、これまでに取り組んだ国立大学附属中学校及び公立中学校でのプレゼンテーション活動をもとに、それらの実践や失敗談、課題点等をご紹介し、今後の取り組みへの一助とさせていただきたく思います。まだまだ試行錯誤の毎日ですが、ご参加される先生方や学生の皆さんとの意見交換を通して、更に授業改善をめざしていきたいと考えています。

17:00 閉会

今後の予定

2020年3月20日（金）・21日（土）第26回中学高校教員のための英語教育セミナー

（キャンパスプラザ京都）